

1 今年度の達成目標

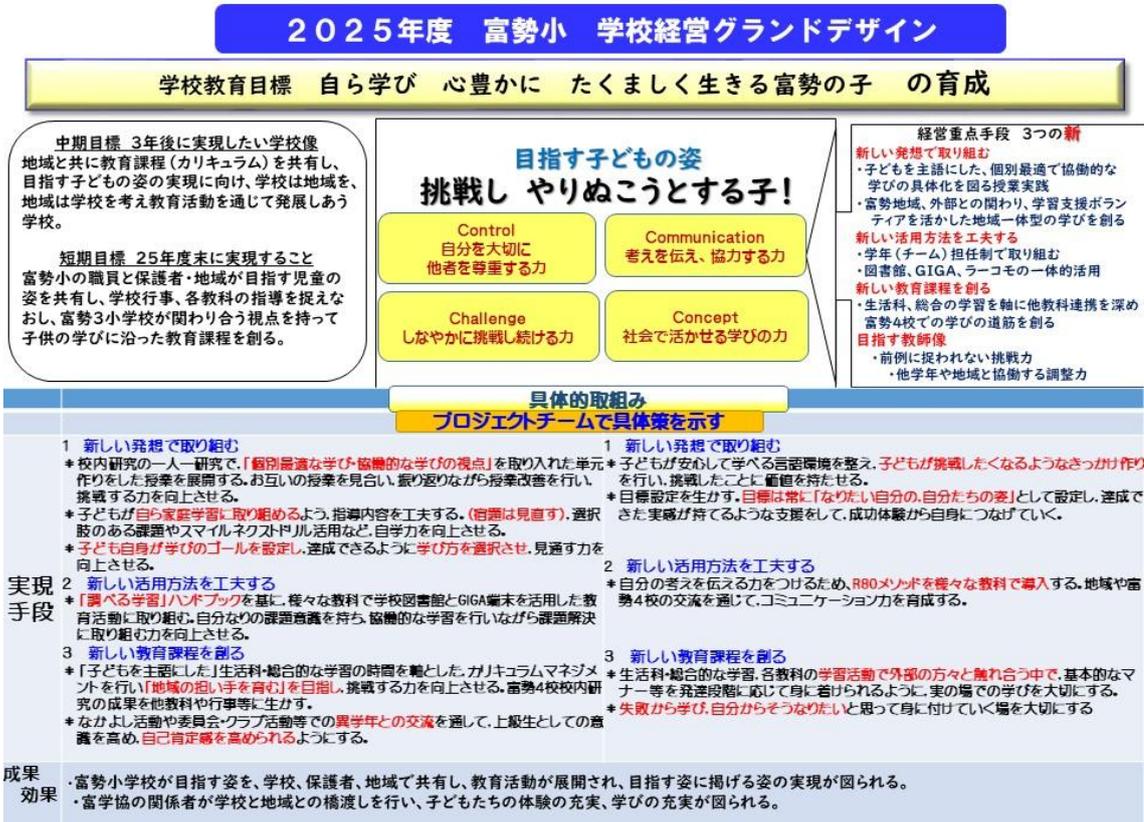
学校経営を行うためには、経営に関わるメンバー（学校教職員・児童・保護者・地域支援者）が目標を共有することが第一である。

そして、その目標を実現するために、何を行うのかという手段を示し、その手段を一人一人の仕事分担や個性と持ち味を生かし、工夫改善を行いながら実践し、目標の実現を図っていくことが経営であると考えている。

その経営全体の姿を以下のように、学校経営グランドデザインとして表す。

達成目標として掲げた「卒業時に目指す姿」は、着任年度の4月に職員ワークショップを行い、6月に教育ミニ集会を開き、教職員と保護者と地域から、本校で育む児童の姿を集め、プロジェクトチームによる整理集約を行い、目指す児童像「挑戦し やり抜こうとする子」となった。この姿を具体化させ、どのような姿を実現したいかを中学校区の教育ミニ集会でワークショップ型で話し合い富勢中学校で整理したものと、柏市が掲げる「4つのC」を関連させて9年間で育てる4つの姿を位置付け、本校が目指す児童の姿との関係を一体化して図式化した。

校長が示す3つの新を活かして目指す姿を具現化するための具体的取組みは、プロジェクトチームにより言語化した。この具体策の中から各職員は目標申告シートに掲げる目標を設定して取り組み。重点方策の実現状況を学校評価アンケートから読み取り、目標達成に向けた取り組みを整理し、次年度の実践の核を見出すことが、本校の学校評価のねらいである。



## 2 今年度の重点方策

令和7年度の学校経営として、最も力を入れた3点は、チーム担任制、生活科と総合的な学習の時間を軸としたカリキュラム・マネジメント、子どもを主語とした学習である。

チーム担任制は、3年生以上で教科担任制とすることと、4年生以上で学年担任制とし、学年担任制では、定期的に学級担任が入れ替わって3クラスを3人で担任するという仕組みである。

子どもを主語とした学習は、研究主題である「地域の担い手を育む」とする生活科と総合的な学習の時間を軸としたカリキュラム・マネジメントにおいて、一人1研究として生活・総合と関連する教科単元の開発と、自由進度を取り入れた個別最適な学習の手だての2点について、OJTを通じて研鑽を積み重ねていけるようにした。

## 3 重点方策の現状（自己評価）

### (1) 学年担任制について

学級担任制、教科担任制について、児童のスコアは満足に近い結果となっているが、保護者、教職員の結果は振るわないものとなった。保護者にとっては具体的な良さが見えにくいものとなっており、職員にとっては子供たちに目が行き届くといった利点はあるものの、運用の負担感がどうしてもかかってしまうことが結果に表れたものである。

学年担任制の導入により、複数の先生と関わることで、子供の視野が広がり、社会性の幅が広がる等、多角的な視点での指導が行われていることや、複数の視点から子供を見守ることで、安心感が生まれる等、児童・教員双方への心理的・物理的な余裕が生まれている点が高く評価されている。一方で、情報共有の徹底度や、相談窓口の曖昧さに対する不安や戸惑いの声が多く寄せられている。

「学年担任制」として、ひとつのクラスに学年の先生全員が関わることについてどう思いますか				
	1学期末		2学期末	
児童			肯定回答84%	3.13
教職員	肯定回答43%	2.43	肯定回答48%	2.48
保護者	肯定回答72%	2.93	肯定回答53%	2.51

そのため、今後の運用において以下のような点に重点を置いて進めていくべきと考えています。

#### ① 相談・連絡ルートの明確化

「困った時はまずこの先生へ」といった具体的な相談窓口を明確にすることで、保護者や児童の迷いを解消に向ける。その上で、相談内容や話しやすさ等を踏まえ、相談相手を自由に選択してよいことを改めて確認していく。

#### ② 指導方針の統一と一貫性の確保

職員間において、指導の内容等を事前に確認し、指導体制を整えることで、児童の混乱を防ぎ、誰が担当しても一貫した指導が行えるようにする。

#### ③ 情報共有の可視化と安心感の提供

「学年全体で共有されている」という事実を、面談や通知表、日々の連絡を通じて保護者に丁寧に伝えることで、信頼を構築していく。

#### ④ 学年・児童の特性に応じた柔軟な運用

学年担任制を導入する学年、時期等については、発達段階や児童の個性に合わせた検討を

さらに進め、より効果的な実施方法を検討する。

## (2) 教科担任制の導入について

教科担当制については、児童・保護者・教員ともに満足という結果となった。教科担当制が実施されることで、各教科の専門知識を持つ教員から教わることで、より深く、質の高い教育を受けられる。子供の興味や意欲が引き出されている。といった点が高く評価されている。

また、高学年においては、中学校での教科担任制にむけて、小学生のうちから慣れておくことへのメリットから、高い評価となっている。さらに、学級毎の指導の偏りや差が減り、どのクラスも均一な指導を受けられることも、高い評価を得る要因となっている。

一方で、頻繁に先生が入れ替わることで混乱や戸惑いが生じ、かえって理解しにくくなる場合があるのではないかという意見や、担任と過ごす時間が減ることで、子供と担任との関係が希薄になるのではないかという不安もみられる。

3年生以上の「教科担当制」の指導は、わかりやすい授業となっていると思いますか				
	1学期末		2学期末	
児童			肯定回答88%	3. 23
教職員	肯定回答73%	2. 82	肯定回答89%	3. 25
保護者	肯定回答97%	3. 23	肯定回答92%	3. 32

教科担当制は、「専門性の活用」という面で高く評価されている一方で、運用上の細かな差異やコミュニケーション面での課題が残っていると言える。そのため、今後の運用において以下のような点に重点を置いて進めていくべきと考えてる。

### ① 児童の心理的フォローと関係構築

担任が全ての教科を指導することと比べ、一人一人の教員と子供たちの接する時間が短くなる中で、いかに子供たちと深い信頼関係を築くかが課題となる。特に混乱を感じている児童や、特定の教科に苦手意識を持ち始めた児童に対し、学年担任と教科担当が連携してきめ細かくサポートする体制を構築していく。

### ② 低学年における導入の検討

低学年については、児童の発達段階を考慮し、段階的な導入や教科の選別を慎重に行っていながら導入していく。小規模校である富勢東小学校では、全学年教科担任制を導入している。その知見や、幼稚園・保育園・こども園では、複数担任制が実施されており、園との連携の中でも検討を深めていく。

## (3) 生活科と総合的な学習の時間を軸としたカリキュラム・マネジメントについて

富勢地域を教材とした、生活科と総合的な学習の時間を軸とする、カリキュラム・マネジメントは、昨年度より開始し、今年度は富勢地区4校（富勢中学校区）で共有されることとなった。4校の教員が一同に会しての学習内容検討なども行われ、共通テーマを「地域の担い手を育む」として取り組みは本格化してきている。

生活科や総合的な学習の時間の取組みで、自分なりの課題や疑問をもち、解決に向けて学習を進めている・				
	1学期末		2学期末	
児童	肯定回答 %		肯定回答90%	3. 34
保護者	肯定回答82%	2. 96	肯定回答90%	3. 11
教職員	肯定回答80%	2. 80	肯定回答91%	3. 00

総合的な学習の時間や生活科の学習を富勢地域に関連させて学べるように、学習単元の工夫改善を図ってきた。それは、学校独自の学習を組むことができる唯一の教科が総合的な学習の時間であるからである。その中で、課題を見つけ、解決策を考え、解決に向けた取り組みを行い、結果を振り返る、という課題解決型の学習を行い、実感のある学びとするためには、学習するフィールドを地域として、Well-Beingにつながる学習が大切だと考えるからである。実際に学区内を学習フィールドとした単元を実施した教員にその理解が深まり、子供たちも少しずつ実感をしていることが現れていると捉えている。

富勢中学区4校は、KMG 'Sの具体策として、「地域の担い手を育む」という共通テーマで取り組むこととなり、今後は学区全体の学校と地域との関連がより一層深まっていくことが期待できる。

#### (4) 子どもを主語とした学びの創出

子どもを主語として、という考え方が職員の中から生まれ、一人一人の学びの大切さを活かすために、自由進度学習を取り入れた授業が展開されるようになった。

自由進度学習を展開するためには、教師側の準備が重要になり、一人一人の子どもの学びの様子を見とる力が重要になる。その点でまだ不十分な面が散見されるが、子どもたちにとっては自分のペースで学ぶことができる点で評価が高い。

「自由進度学習」を取り入れることで、自分に合った進度や方法で学習を進められ、理解が深まっている				
	1学期末		2学期末	
3年以上児童	肯定回答	%	肯定回答89%	3.43
保護者	肯定回答57%	2.57	肯定回答53%	2.53
教職員	肯定回答78%	2.83	肯定回答46%	2.50

子どもたちにとって、学習のねらいや目的、達成すべき事柄が十分に伝わり、吟味された上で自由進度学習が展開されているかが、重要なポイントとなる。

実際は、その点が曖昧なまま授業が展開されている場合が多く、自由という点だけが子どもたちに好意的に捉えられている現状がある。今後、個別最適で協働的な学びを充実させ、一人一人の子どもたちが自ら学びに向かう力を発揮し、生涯に渡って学び続ける人財を育成するためには、自由進度学習の単元づくりや子どもの学び（認知の仕組み）を教師自身が深く学んでいく必要がある。

#### (5) その他学校経営全般に関わる評価について

学校生活全般に係る教育活動に対する満足度に関しては、概ね満足を得ることができている。

学習に関しては、教職員の自己評価が低く、授業改善に向けた更なる努力を課している思いが現れていると捉える。今後の具体的な授業改善により結果に結びつく実践に結びつく経営を考えていく。

家庭学習と読書については、柏市学力学習状況調査の結果にも見られる通り、大きな課題を有している。次年度は、読書の習慣と家庭学習の習慣化を図れるような工夫改善が必要である。

今年度の教育活動に満足ですか				
	1学期末		2学期末	
3年以上児童	肯定回答	%	肯定回答89%	3.43
保護者	肯定回答88%	3.14	肯定回答88%	3.15
教職員	肯定回答67%	2.75	肯定回答67%	2.67

学校・家庭・地域は連携して学校運営を行っているか				
	1学期末		2学期末	
3年以上児童	肯定回答 %		肯定回答 89%	3. 43
保護者	肯定回答 91%	3. 27	肯定回答 95%	3. 32
教職員	肯定回答 71%	2. 82	肯定回答 84%	3. 00

本校の目指す児童の姿＝「挑戦しやりぬこうとする子」を知っていますか				
	1学期末		2学期末	
3年以上児童	肯定回答 %		肯定回答 %	
保護者	肯定回答 79%		肯定回答 84%	
教職員	肯定回答 100%		肯定回答 100%	

学習指導全般（学習進度・授業のわかりやすさ・学力の定着度等）に満足していますか				
	1学期末		2学期末	
3年以上児童	肯定回答 %		肯定回答 91%	3. 29
保護者	肯定回答 83%	3. 07	肯定回答 76%	2. 93
教職員	肯定回答 48%	2. 33	肯定回答 42%	2. 32

お子様は、家庭で進んで学習に取り組んでいますか				
	1学期末		2学期末	
3年以上児童	肯定回答 %		肯定回答 83%	3. 12
保護者	肯定回答 63%	2. 78	肯定回答 54%	2. 45
教職員	肯定回答 35%	2. 21	肯定回答 15%	1. 96

家庭で進んで読書に取り組んでいますか				
	1学期末		2学期末	
3年以上児童	肯定回答 %		肯定回答 54%	2. 63
保護者	肯定回答 63%	2. 78	肯定回答 54%	2. 45
教職員	肯定回答 7%	1. 73	肯定回答 4%	1. 42

学校は、安全安心な学校づくりに努めていると思いますか				
	1学期末		2学期末	
3年以上児童	肯定回答 %		肯定回答 89%	3. 43
保護者	肯定回答 98%	3. 40	肯定回答 97%	3. 31
教職員	肯定回答 96%	3. 35	肯定回答 76%	2. 81

教職員は、一人一人の児童や保護者に寄り添った相談ができていますか				
	1学期末		2学期末	
3年以上児童	肯定回答 %		肯定回答 86%	3. 33
保護者	肯定回答 91%	3. 28	肯定回答 86%	3. 15
教職員	肯定回答 92%	3. 20	肯定回答 96%	3. 35

#### 4 「4つのC」に関する取組（自己評価）

「4つのC」については、富勢中卒業時に目指す姿と関連させて設定した。

- 【見通す力 Concept から振り返り】 社会で活かせる学びの力
  - 【挑戦する力 Challenge から 粘り強さ】 しなやかに挑戦し続ける力
  - 【関わり合う力 Communication から協働】 考えを伝え 協力する力
  - 【自律する力 Control から自己肯定】 自分を大切に他者を尊重する力
- 本年度の結果を3色で表示した。柏市との比較は1/10の位まで

柏市平均より上	昨年度より良く柏市平均より下	柏市平均より下
---------	----------------	---------

##### (1) 【見通す力 Concept から振り返り】

	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校昨年	3.00	3.36	3.07	2.93	2.90	2.98	2.92
本校今年	3.01	3.30	3.04	3.03	2.85	3.07	2.84
柏市	3.10	3.26	3.11	3.04	2.96	3.12	3.08

##### (2) 【挑戦する力 Challenge から 粘り強さ】

	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校昨年	3.14	3.41	3.42	3.15	3.12	2.96	2.90
本校今年	3.17	3.52	3.32	3.23	3.11	3.11	2.75
柏市	3.23	3.44	3.34	3.25	3.17	3.10	3.05

##### (3) 【関わり合う力 Communication から協働】

	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校昨年	3.15	3.51	3.37	3.16	3.11	2.92	2.94
本校今年	3.15	3.41	3.29	3.21	3.07	3.08	2.89
柏市	3.27	3.45	3.36	3.30	3.24	3.18	3.12

##### (4) 【自律する力 Control から自己肯定】

主体性	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校昨年	3.15	3.58	3.36	3.22	3.18	2.93	2.81
本校今年	3.23	3.55	3.40	3.21	3.20	3.17	2.86
柏市	3.32	3.49	3.43	3.38	3.34	3.10	3.10
自己肯定	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校昨年	2.82	3.24	3.04	2.90	2.82	2.64	2.43
本校今年	2.89	3.30	3.13	2.86	2.77	2.90	2.45
柏市	3.03	3.37	3.20	3.09	2.95	2.85	2.71

目指す姿に掲げた挑戦する力は6年を除き全てが柏市平均同等か上回る結果となった。それに付随して主体性についても、昨年度より進捗が見られるようになっている。次年度では、関わり合う力を伸ばしつつ、自己肯定感の向上を目指していきたい。

## 5 学校関係者評価 【評価日 令和8年2月10日】

本校が重点的に取り組んでいる、「自由進度学習」および「指導体制(学年担任制・教科担任制)」に関して中心に評価を行うこととします。

### (1) はじめに

学校教育において「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に実現することは、次世代の教育課程編成における戦略的最優先課題です。本校が取り組んできた「自由進度学習」の導入、および「学年担任制・教科担任制」への移行は、児童の自律性を引き出し、教職員の専門性を組織的に活用するための抜本的な構造改革です。

令和7年度学校評価(アンケート評価)による、定量的・定性的な調査結果に基づき、現状の成果と単なる現状追認ではなく、次年度の教育課程および組織運営を最適化するための意見として、学校関係者評価を作成します。

### (2) 自由進度学習の導入効果および学習意欲と進捗について

自由進度学習は、児童の「自己調整学習」を促進し、学習の主体性を高める上で極めて有効に機能しています。

自己調整学習のメカニズムと意欲向上は、児童アンケートでは、「自分のペースで進められるため無理がない」「苦手な範囲を重点的に取り組める」といった自己の学習を客観視した評価が並び、一部の児童からは「神」「楽しい」といった熱狂的な肯定意見が見られました。自律的な進捗管理が心理的安全性を高め、強固な学習モチベーション(内発的動機付け)を生んでいることが確認されます。

また、進捗管理の個別最適化についても、「テストの練習を自習でできるのが良い」「理解できるまで繰り返せる」といった意見が示す通り、一斉授業では困難だった「習熟度に応じた進捗」のパーソナライズ化が実現しています。これにより、得意科目の先取り学習や、苦手科目の徹底復習が可能となり、学習の質的向上が図られています。

一方で、自由度の拡大は「規律の乱れ」と「学力格差の固定化」というリスクを同時に露呈させています。意欲的な児童が飛躍する一方、「ダラダラ勉強する」「ふざけて取り組まない」児童との差が顕著に表れていることも感じられます。「人によって差が生まれるため、先生が授業をした方がいい」という切実な不安の声も見られることは事実です。

このような状況を詳しく調べると、「何をやればいいのか分からなくなる」といった、自己決定に不慣れた児童が学習の迷子になる現象、「うるさい人がいる」「おしゃべりが多くなる」といった学習規律の乱れが、集中を望む児童の権利を侵害している現状、があります。

全ての児童が、自由進度学習により学力を向上させていくためには、次のような規律やフローチャートを確立して、学校全体で共有していくことが望ましいと考えます。

○学習体制としてのフローは、分からない時の相談手順を「1.隣の席の友達、2.エキスパート児童(教え合い役)、3.教員」と明文化し、自律的な解決を支援します。

○学習環境の構築として、完全に私語を禁じる「サイレント・エリア」と、対話・相談を許可する「コラボレーション・エリア」を明確に区分します

○学習進捗の確認として、進捗を児童任せにせず、教員が週単位で進捗を確認し、未達児童へは個別指導を割り込ませる仕組みを構築します。

以上の3点を来年度初めには十分に確認をした上で、すべての教員が学習方法を共通理解し、児童へ伝えた上で、学年に応じた方法で取り入れていくことが、本年度浮彫となった課題に対応することとなると考えます。

### (3) 指導体制の学年担任制と教科担任制について

多角的な指導体制は、教育の質の向上に寄与する一方で、運用面で「物理的・心理的摩擦」を生

じさせることは、導入の初期段階では仕方がないことだと考えています。次年度以降の円滑な運営と児童・保護者への理解を深めていくための視点を以下に記したいと思います。

教科担任制・学年担任制についての、専門性と多様性の側面からは、次のような評価ができると考えられます。

教科担任制は、「それぞれの得意な教科で教われるから分かりやすい」と、専門性の高い指導が児童の理解度と意欲に直結しています。学年担任制については、多角的視点から、児童が「相性の良い先生を選んで相談できる」ことは心理的安定に大きく寄与していますし、教員側も、一人の児童を複数の視点で捉えられるメリットを享受しています。

一方で、制度化の初期段階として、学級担任制としてのルーティンで行っていたことが、新たな制度の中では顕在化した「現場の歪み」として顕在化したものが見られます。

例えば、指導・規律の不一致として、「先生によってルールが違う」「朝の過ごし方が先生ごとに変わる」という指摘、「提出物の窓口が他クラスにあり、移動が大変」「忘れ物をした際に誰に言えばいいかわからない」といった、物理的な距離と責任所在の曖昧さの指摘などが、見られます。

今年度の振り返りを十分に行わないと、チームで仕事を分担するという良い面ではなく、連携不足による「2倍以上の業務負担」を訴える声や、特定の教員への依存、若手教員が自身の良さを発揮しにくい状況が、持続可能性についての課題を呈しています。

#### (4) 次年度に向けた持続的な制度運用への提言

本年度の課題を克服し、制度を安定稼働させるための4つのアクションプランを提示します。

##### ○「学校・学年統一ルール」の明文化と徹底

提出物の提出先、朝のルーティン、給食の配膳方法、学習規律、騒音レベルの基準などを、教師個人の裁量ではなく「学校・学年のルール」として完全統一することの必要性を提示します。

今までの学級担任制の場合は、教師ごとにルールが異なる場合があっても、教師同士で指摘し合うことは少なく、子どもが教師によるルールに合わせていた現実があります。

ルーティン化が必要な部分を洗い出し、子どもが迷わないようなアクションプランとして提示することが、学校全体の落ち着きと制度の安定性につながります。

##### ○「情報の同期」と「情報共有化」の徹底

チーム担任制及び教科担任制を行っていくためには、関わる教師同士の情報共有が重要なポイントとなってきます。その時間を明確に位置付け、十分な情報交換と共有ができることが、大変重要なポイントとなってきます。

学校でフォーマットを共通とした情報共有シートの活用等を導入することによって、すべての教師の手元には共有された情報が同じ形式で残っていくことが可能となり、初任者等の現場に慣れていない教師などの情報漏れを防ぐことにつながり、シートコピーを管理職も共有することにより、学年の意思確認につながっていきます。

##### ○「N+1」人員配置モデルの検討

構造的な負担軽減、急な欠員対応のため、「2クラスなら3人、3クラスなら4人」の配置を基本とする人員確保・組織編成を次年度の学年配置として検討をしてみることを提案します。

専科教員等のクラス担任を持たない先生についても、授業で関係する学年を基本的な学年として指定しておき、朝や給食・帰りの際のルーティンとしての学年担任業務は担うこととします。急な欠勤への対応や、初任者等とのペアリングによる「OJT型配置」などに対応できるようにし、様々な変化への対応が図られるようにすることを提案します。

#### (5) おわりに

新時代の教育体制の確立に向けて、令和7年度の富勢小学校の学校評価から得られた児童の批判や教員の疲弊は、制度の欠陥ではなく、組織がより高い次元へ進化するための「伸び代」だと考え

ることです。自由進度学習と多様な指導体制は、児童の自律性と教員の専門性を最大化するための強力な武器となります。今回特定した「ルール的一致」「情報共有時間の確保」「担任制度の人数的工夫体制」という三つの柱を打ち込むことで、次年度はより強固で持続可能な教育体制を確立できると確信しています。

学校全体の持続的な成長と、児童一人ひとりの可能性を拓く組織変革への期待を込めて、学校関係者評価の総括といたします。

## 6 令和8年度に向けて

令和8年度教育課程グランドデザインは、教育課程創造プロジェクトメンバーを中心に、2月末にすでに以下の形で作成されている。

次年度の中心的な方針は、校長が示す3つの新に表し、その具体策をプロジェクトチームが示した。

令和7年度の学校評価を反映した学校経営を、校長と職員と地域学校協働活動本部が一体となって行っていこう、調整を十分に図っていく所存である。

2026年度 富勢小 学校経営グランドデザイン

学校教育目標 自ら学び 心豊かに たくましく生きる富勢の子 の育成

**中期目標** 3年後に実現したい学校像  
地域学校協働活動本部はNPOとして学校支援団体となる。  
子どもが学び力をつけ、それを支える大人と地域も活性化する学校。

**短期目標** 26年度末に実現すること  
富勢小の職員と保護者・地域が目指す児童の姿を共有し、学ぶことが楽しい学校になる。自分から学ぶ子どもたちと大人たちが交流する学校。

**目指す子どもの姿**  
**挑戦し やりぬこうとする子!**

**Control**  
自分を大切に  
他者を尊重する力

**Communication**  
考えを伝え、協力する力

**Challenge**  
しなやかに挑戦し続ける力

**Concept**  
社会で活かせる学びの力

夢中・熱中・集中・・・そして感動!の授業を

**経営重点手段 3つの新**

**新しい発想で取り組む**

- ・子どもを主語にした、個別最適で協働的な学びの具体化を図る授業実践
- ・40分5時間授業と60分探究型授業の活用

**新しい活用方法を工夫する**

- ・学年(チーム)担任制・教科担任制の活用
- ・図書館、GIGA、ラーコモの一体的活用

**新しい教育課程を創る**

- ・生活科、総合の学習を軸に学びに向かう力と実の場で活用できる学力につなぐ

**目指す教師像**

- ・前例に採れない挑戦力
- ・他学年や地域と協働する調整力

	学習	具体的取組み プロジェクトチームで具体策を示す	生活
<b>実現手段</b>	<p><b>1 新しい発想で取り組む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 校内研究の一人一研究で、「個別最適な学び・協働的な学びの視点」を取り入れた単元作りをした授業を展開する。お互いの授業を見合い、振り返りながら授業改善を行い、挑戦する力を向上させる。</li> </ul> <p><b>2 新しい活用方法を工夫する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 子どもが<b>自ら家庭学習</b>に取り組めるよう、指導内容を工夫する。(宿題は見直す)、選択肢のある課題やスマイルネクストリル活用など、自学力を向上させる。</li> <li>* 授業や日常生活で<b>子ども自身が学びのゴールを設定し</b>、達成できるように<b>学び方を選択させ</b>、見通す力を向上させる。</li> <li>* 「調べる学習」ハンドブックを使う場面を設定し、様々な教科で学校図書館とGIGA端末を活用した教育活動に取り組む。自分なりの課題意識を持ち、協働的な学習を行いながら課題解に取り組む力を向上させる。</li> </ul> <p><b>3 新しい教育課程を創る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「子どもを主語にした」生活科・総合的な学習の時間を軸とした、カリキュラムマネジメントを行い「<b>地域の担い手を育て</b>」を目指し、挑戦する力を向上させる。富勢4校校内研究の成果を他教科や行事等に生かす。</li> </ul>	<p><b>1 新しい発想で取り組む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 子どもが<b>安心して挑戦したくなるようなきっかけ作り</b>を行い、挑戦したことに価値を持たせる。</li> <li>* 生活目標を活かす。<b>目標は常に「なりたい自分の、自分たちの姿」として設定し</b>、達成できた実感が持てるような支援をして、成功体験から自信につなげていく。</li> </ul> <p><b>2 新しい活用方法を工夫する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 自分の考えを伝える力をつけるため、<b>R80メソッドを様々な教科で導入</b>する。</li> <li>* 丁寧に清掃や委員会・クラブ活動等での<b>異学年との交流</b>を通して、上級生としての意識を高め、<b>自己肯定感を高められる</b>ようにする。</li> <li>* 学年(チーム)担任制を活かし、多くの目で子どもの変化を捉え、積極的な生徒指導を行う。(問題の早期発見や丁寧な指導)</li> <li>* 8時まで図書館を開放し、読書機会を拡充(地域支援ボランティアの活用)</li> </ul> <p><b>3 新しい教育課程を創る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 生活科・総合的な学習、各教科の<b>学習活動で外部の方々(地域や富勢4校)と触れ合う中で</b>、基本的なマナー等を発達段階に応じて身に付けられるように、実の場で学びを大切に</li> </ul>	
<b>成果効果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富勢小学校が目指す姿を、学校、保護者、地域で共有し、教育活動が展開され、学習状況調査等に結果が表れる</li> <li>・富学協の関係者と地域学校協働活動本部が地域との橋渡しを行い、子どもたちの体験の充実、学びの充実が図られ、関係者の生きがい創出にもなる。</li> </ul>		